



物流業務のデモ体験ができるスペースを備える



お台場を望む屋上はイベント会場にも使える



大きなモニターのある壇上は日頃の情報共有の場となっている

医薬品をはじめとして、オロナミンC、ポカリスエットなど、一般消費者にも長く愛される商品でおなじみの大塚グループ。その物流を担う事業会社が大塚倉庫だ。45年前、大塚倉庫は徳島からの商品を荷揚げするため晴海ふ頭に倉庫を建てた。

現在この地域では再開発が相次ぎ、急速な発展を遂げている。またオリンピックの選手村が建設されるなど、建設当時より大きな変化を遂げている。大きなトラックなどの出入りが困難となり、倉庫としての機能を果たすことができなくなったため、2018年にCROSS DOCK HARUMIと名づけ、現代的なオフィス棟としてリノベーションした。

倉庫オフィスの再生事業を担った大塚晴海開発代表取締役の石井孝司氏はこう語る。「非常識を新たな常識に変えていくことが大塚グループの考え方の一つであり、建て替えるのではなく、これまでの建物の価値を高め、たくさんの人とアイデアが集まり、コミュニケーションを活性化させるような工夫を仕掛けました」

6階建ての建物のなかには、大塚倉庫のほか、医療機器やAI、ロボット開発など、研究開発を中心とする複数の企業が入居している。倉庫の頑丈な構造は生かしつつ、共用部には美しいシャンデリアや大型の絵画が飾られ、五感を刺激する。最上階は社員食堂、そして屋上は東京湾を広く見晴らすイベントスペースにもなる。話題沸騰のTVドラマ、映画、CMなど多くの番組のロケ地や、ファッションショーのステージに使われるという。

そして、大塚倉庫のオフィスワークも、晴海を舞台に“新たな常識”に挑んでいる。まず、オフィスの物理的な壁を取り壊し、1フロアに改装。営業やITなど部門の壁をなくすコミュニケーションを実現した。オフィス入り口すぐの大きなモニターのある集合スペースでは、全国23事業所をオンラインで結ぶ独自の「Office Oneシステム」を通じて、リアルタイムの様子が映し出されたり、プレゼンテーションや情報共有の場に毎日活用されている。また、結末の象徴として、フロアの真ん中に大きな太鼓を置いた（表紙写真）。広く知らせたい情報や重要なことが起きたとき、ドンと叩けば従業員皆が振り返って集まり、出来事や喜びを分かち合えるという面白い着想だ。

「仕掛けをさまざまな部分に組み入れることで、コミュニケーションが活性化し、上質なインプットアウトプットの機会につながり会社を成長させています」（大塚倉庫東京本部総務人事部係長 今井寛子氏）

コミュニケーションが活性化する工夫を多彩に盛り込んだ結果、イノベーションが日々起きるような職場へのリノベーションにも成功している。

（写真/元家健吾 [表紙、P11] 取材・文/根本洋子）

KAICAを支援する! JMAの事業活動のご紹介

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 日本能率協会が提供するSDGs推進支援サービス

1 あなたの会社に合わせたSDGsの社内研修・普及推進・新規事業開発を日本能率協会が支援します。
リモートでの研修実績も続々!



3 SDGs講師派遣研修をリモートで実施するWebシステムを提供します。



OUR SDGs

持続可能な未来をデザインし、実行しよう



2 動画や資料ダウンロードを公開中!!



4 SDGs構築のステップ 貴社状況に応じて内容をカスタマイズし、プログラムをご提案します。

- | Step | SDGs構築のステップ | 内容 |
|------|---------------|---------------------------|
| 1 | SDGsの実践的理解 | 研修により「なぜSDGsか?」を理解する |
| 2 | バリューチェーンマッピング | 初期調査として事業とターゲットの紐づけ |
| 3 | 取り組み課題の決定 | 重要な社会課題 (SDGsターゲット) の決定 |
| 4 | 取り組み方針と計画の策定 | 経営計画がSDGs達成に貢献するよう設計 |
| 5 | SDGsの取り組み開始 | SDGs計画の運用を開始、成果を監視測定 |
| 6 | 外部発信 | ホームページで方針や取り組み・成果を外部にアピール |

【日本能率協会SDGs最強の早わかりサイト】
<https://jmaqa.jma.or.jp/sdgs.html>